

# 自然再生整備事業

— 神於山地区生活環境保全林自然再生事業実施計画書 —

平成17年6月

実施者 大阪府泉州農と緑の総合事務所  
協議会 神於山保全活用推進協議会

神於山保全くらぶ

# 神於山地区生活環境保全林自然再生事業実施計画書

## 第1章 自然再生事業の対象となる区域及びその内容

- 1-1 全体構想の中での本事業区域の位置づけ P1
- 1-2 自然再生事業の対象となる区域 P1

「神於山地区自然再生全体構想」  
「平成16年度 神於山(里山)植生調査業務」  
をもとに作成

## 第2章 自然環境の概要

- 2-1 事業区域の地形・地質等 P2
- 2-2-1 事業区域の現況植生 - 事業対象区域の植生の概況 - P3
- 2-2-2 事業区域の現況植生 - 森林荒廃状況 - P4

「平成13年度 岸和田市自然環境資源調査」  
「平成16年度 神於山(里山)植生調査」  
をもとに作成

## 第3章 整備の目標

- 3-1 自然再生全体構想の目標 P5
- 3-2 自然再生整備のゾーン区分 P6
- 3-3 自然再生整備の実施 P7

「平成13年度 岸和田市自然環境資源調査」  
「平成16年度 神於山(里山)植生調査」  
をもとに作成

## 第4章 森林の再生・利用方法

- 4-1 森林再生方法 <タケ優占林、クズやササのヤブ状地、荒廃密生林、自然誘導林> P8
- 4-2 森林再生方法 <その他の森林(管理可能な竹林)> P9
- 4-3 付帯施設の整備 P10

## 第5章 モニタリング計画

- 5-1 モニタリングの進め方 P11
- 5-2 モニタリング調査方法 P12

## 第6章 市民参加型保全活動

- 6-1 神於山保全クラブの事業活動 P13
- 6-2 ボランティアとの連携 P14

### はじめに (経緯)

神於山保全活用推進協議会では、神於山の再生・保全・活用を目指して里山としては全国で初めて自然再生推進法に基づく「神於山地区自然再生全体構想」を作成した。

同協議会は、行政、学識経験者、市民、ボランティア団体などさまざまなメンバーで構成されており、平成15年9月に発足し、平成16年3月に自然再生推進法に基づく協議会とすることが承認され、平成16年5月から現在に至るまで協議会や部会を開催し、里山整備方針や市民が親しむことのできる森づくりの方向性について協議されてきた。

本計画書は、全体構想と協議会や部会で検討された結果をベースに、神於山地区生活環境保全林の整備方針や市民参加方法について自然再生事業実施計画書として取りまとめたものである。

### 目次の詳細検討項目における趣旨

#### 第2章 自然環境の概要

【趣旨】

- 2-1 事業区域の地形・地質等
- 2-2-1 事業区域の現況植生 - 事業対象区域の植生の概況 -
- 2-2-2 事業区域の現況植生 - 森林荒廃状況 -

神於山の樹林整備の基礎となる自然環境について、事業区域及び周辺の地形・地質や現況の植生について整理した。

#### 第3章 整備の目標

【趣旨】

- 3-1 自然再生全体構想の目標
- 3-2 自然再生整備のゾーン区分
- 3-3 自然再生整備の実施

自然再生についての構想や整備方針等について整理した。  
森林の荒廃状況をタイプ別に区分し、また整備におけるゾーン区分を踏まえた整備方針を掲げた。

#### 第4章 森林の再生・利用方法

【趣旨】

- 4-1 森林再生方法  
<タケ優占林、クズやササのヤブ状地、荒廃密生林、自然誘導林>
- 4-2 森林再生方法 <その他の森林(管理可能な竹林)>
- 4-3 付帯施設の整備

森林の荒廃状況に応じたタイプ別の整備手法、植栽方法について詳細検討を行った。

#### 第5章 モニタリング計画

【趣旨】

- 5-1 モニタリングの進め方
- 5-2 モニタリング調査方法

事業実施計画に基づき再生された自然環境やタケの利活用効果の状況を検証するためのモニタリングの方法や時期を記載した。

#### 第6章 市民参加型保全活動

【趣旨】

- 6-1 神於山保全クラブの事業活動
- 6-2 ボランティアとの連携

神於山保全クラブの活動内容と今後のボランティアとの連携について、記載した。